

私 の 工 夫

自ら意欲的に学ぶ学習指導の工夫 〜第3学年での実践〜

吉備中央町立円城小学校

指導教諭 吉幸 美奈



1 はじめに

日々の授業の中で、子どもたちが元氣よく音読したり、自分の思いを懸命に書いたりする姿は微笑ましく、すがすがしい。ごく当たり前のように見えるが、そこに至るまでの毎日の積み重ねがあつてこそその姿である。小学校に入学してから今年に至るまでの全てが積み重ねである。特に、各教科等の目標を実現するための手立てとして、言語活動を充実させていくことが重要であり、常に全授業づくりの中で意識してきた。

そんな中、本校では、昨年度から国語科の「読むこと」を中心にして校内研究を進めることとなった。特に初年度となる昨年度は、言語環境の整備や授業改革に努め、本校児童

の実態を明らかにしながら、①「読むこと」の力を支える学習基盤づくり(1) (2)と②読むことの授業づくり(3) (4)に取り組んできた。

そこで、本稿では第3学年におけるささやかな実践を紹介したい。

2 取組の概要

(1) 国語辞典に親しむ工夫

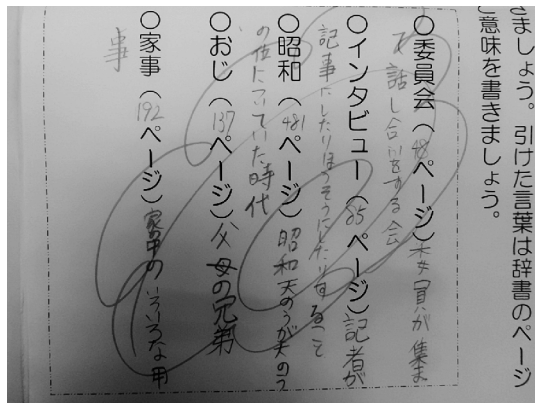
3学年で初めて出会う国語辞典の引き方を定着させ、様々な意味が分かる楽しさを味わわせるために、常に手元に置いて活用する習慣づけを図った。

自分の国語辞典を手さげ袋に入れて机に掛けておく。意味調べカードも袋に入れておき、一斉に意味調べ

をするときだけでなく、課題が早く終わった時や自習、授業前の待ち時間などいつでも主体的に手に取るこゝとができるようにした。

意味調べカードには、学習単元の語句や季節の言葉などを意図的に配置したプリントと語句の部分が自由に書き込めるプリントを用意した。また、2学期からは、調べた語句を使って簡単な文作りも課した。

ましよう。引けた言葉は辞書のページ意味を書きましよう。



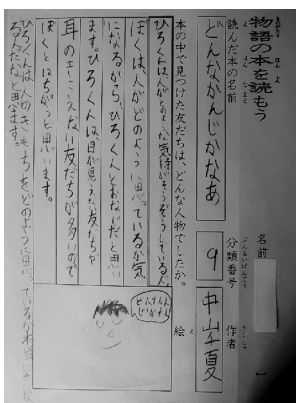
意味調べプリント

(2) 読書活動へ広げる工夫

2学年で行われていた本の紹介カード(自分が読んだ本の登場人物やあらすじなどを書く。)を引き続き

行った。

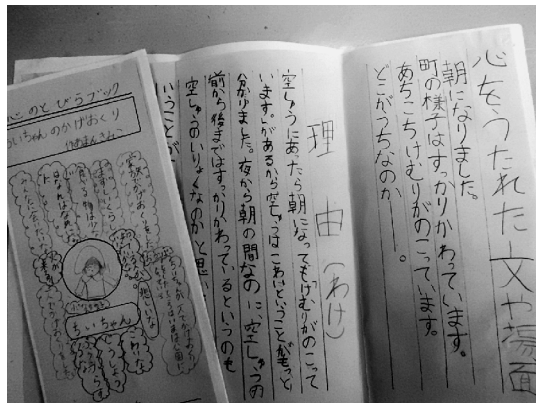
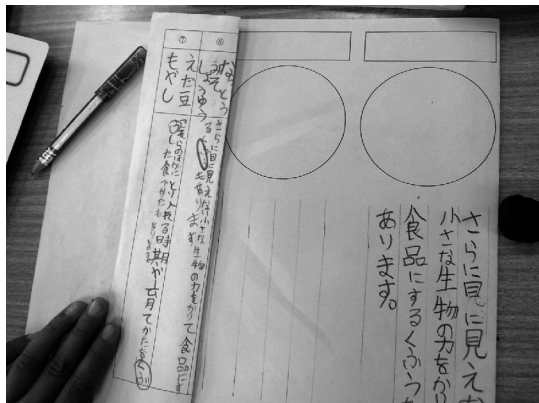
3学年では、「海をかつとばせ」「アリの行列」などを学習した後、同様のテーマの本をいくつか読み、その中から登場人物と自分を比較しての感想や研究から分かったことなどについて要点をまとめて紹介するようになった。A4版程度の大きさには、読書をした後まとめを書くのには適切な分量だった。友達に紹介する時間を設けたり、図書室前に掲示したりすることで、さらに他の本も読んでみようという意欲につながった。また、同じ本を読んでも感想がそれぞれ違うことに気づき、新たな見方を持ち、読み返すきっかけにもなった。



紹介カード

(3) 時間的な見通し、活動の見通

しがもてる工夫



活動の見通しをもつためのワークシート

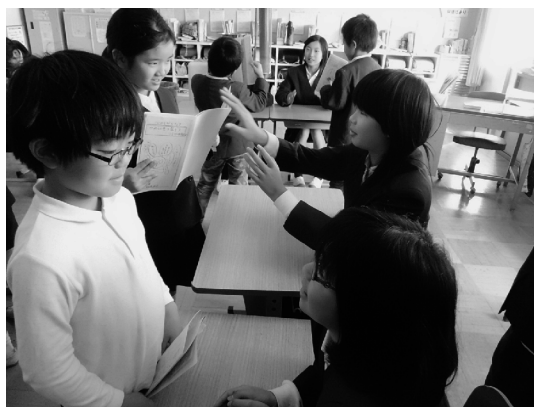
児童が自信をもって学習に取り組むことができるよう、単元全体・各授業時間を通して見通しがもてる支援が大切である。『授業づくりの基

礎・基本(実践編)』(岡山県教育センター)を参考に、児童の実態・初発の感想などを踏まえ、各単元でねらう「読むこと」の指導事項にふさわしい単元計画を立てるようにした。各授業時間においても、目あてに対する自分の考えをもつこと(一人読み)から、お互いの考えを交流し合うこと(広め読み)へつなぐようにした。説明文や物語文など教材文は変わっても、読み方や伝え方、要点のとらえ方などこれまで(前単元・前時)の学習で身に付けた力を手がかりとして本時の課題に向かおうとする姿が見られるようになった。

(4) 児童相互がかかり合う機会 や場の工夫

児童がもった考えを交流し合う場面では、その交流の目的をはっきりと伝え、「考えを発表し合う場」「考えを修正する場」「考えを広げる場」の三つとした。それぞれ、考えを発表した後、「発表についての感想を伝える」「もっとよくなるための(わかりやすくするための)アドバイスを伝える」「その考え以外の意見を

伝える」など、交流の目的に応じた反応ができるようにし、かかり合いが深まるようにした。
また、3年生相互に加えて、他学年との交流の場も設けた。4年生や5年生に自分の感想や考えを伝え、意見交流したことは、3年生の児童にとつて、考えを広げるためのよい場となり、「伝えてよかった。楽しかった。」という成就感を味わうことができた。



5年生へ紹介

3 おわりに

3年生の旺盛な好奇心と探究心に驚かされる。「調べたい」、「読みたい」、「伝えたい」という意欲があればあるほど、教師としては授業一時間一時間ごとの、より明確なねらいや実態に応じた具体的な手立てが必要となる。児童の実態や児童の反応に応じた柔軟な単元構成をし、「自分でできた」「自分たちで考えて分かった」「伝えてよかった」と実感し合える授業づくりを行ってきたい。

もちろん、児童ばかりでなく、教師同士も日々の授業実践を話し合っている。児童の実態を踏まえてつきたい力を話し合ったり、実際の授業について交流の在り方や重点発問の仕方を話し合ったりすることで学習活動を精選することもでき、教材研究の大切さを改めて実感した。今後、日々の積み重ねを怠らず、授業の充実に向けて取り組んでいきたい。